



一般財団法人 全国強制抑留者協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-8-2 九段第二勸業ビル2階

TEL: 03-3261-6565 FAX: 03-3261-6548 e-mail: toiawase@zaidan-zenyokukyo.com

www.zaidan-zenyokukyo.com

会長逝去のお知らせ（訃報）

当会 会長 相沢 英之 は、去る4月4日、肺炎のため逝去いたしました。
ここに生前のご厚誼を深く感謝するとともに、謹んでお知らせいたします。

記

- 【氏 名】 相沢 英之（あいざわ ひでゆき）
【生年月日】 1919年（大正8年）7月4日生（満99歳）
【通夜・告別式】 ご遺族の希望により、近親者のみにて執り行いました。
【喪 主】 相沢 葉子 氏（故人のご夫人）

なお、誠に勝手ながら、ご供花、ご供物、ご香典の儀は固くご辞退させていただきます。

お別れの会につきましては、別途ご案内申し上げます。

- 【問合せ先】 一般財団法人 全国強制抑留者協会 事務局
電 話： 03-3261-6565,
e-メール： toiawase@zaidan-zenyokukyo.com

一般財団法人 全国強制抑留者協会 会長 故 相沢 英之

【略 歴】

- 1919年 (大正8年) 7月 4日 大分県宇佐市生まれ
- 1937年 (昭和12年) 4月 神奈川県立横浜第一中学校(現 希望が丘高校)卒業
第一高等学校(現 東京大学教育学部)入学
- 1940年 (昭和15年) 4月 東京帝国大学法学部政治学科 進学
- 1942年 (昭和17年) 高等文官試験行政科・司法科合格。大蔵省入省、主税局勤務。陸軍召集(学徒出陣)東部第17部隊(近衛輜重兵連隊)入営。第1中隊第6班(内務班)所属。
- 1944年 (昭和19年) 陸軍經理学校幹部候補生隊卒業後、東部第62部隊配属
陸軍主計少尉として北京北支方面軍司令部に転出。
南京支那派遣軍総司令部經理部、武漢防衛軍司令部、咸寧の第12旅団司令部經理勤務班長、漢口の第34軍司令部經理部長副官、同經理部調弁科主任将校と転属
- 1945年 (昭和20年) 6月 咸鏡南道の咸興に移動
8月 出張先の京城府龍山区(ソウル)で玉音放送を聞く。
咸興の司令部へ戻った1週間後ソ連軍侵攻。武装解除。
定平の中学校校舎に収容後、興南港へ移動。
11月 「ダモイ・トーキョー」貨物船でポシエツト港へ。
12月 クラスキノから23日間囚人貨物列車でシベリア移送。
キズネル駅下車。極寒3mの雪中4日間の「死の行軍」を経てタタールスタン共和国エラブガ収容所へ。
- 1946年 (昭和21年) ラーゲルでの強制労働、(定員500人で一冬に800人が死亡)ジェレノドリスク病院での4か月間にわたる尋問、カザン監獄独房での取調べを含め3年間の抑留生活を送る。
- 1948年 (昭和23年) 8月 ナホトカ港から永徳丸で舞鶴港へ上陸。帰還。
大蔵省へ復職。
- 1974年 (昭和49年) 大蔵事務次官退官。
- 1976年 (昭和51年) 12月 衆議院議員当選(鳥取2区選出)、後、当選9回)

- 1980年 (昭和55年) 「全国戦後強制抑留者補償要求推進協議会中央連合会」
会長 就任
以来 40年近くにわたり、ソ連抑留者の処遇改善を求め、会長として運動の先頭に立って尽力。
- 1989年 (平成元年) 3月 財団法人 全国強制抑留者協会 会長 就任
- 1990年 (平成2年) 2月 国務大臣 経済企画庁長官 就任
- 1995年 (平成7年) 9月 第3回日露交流シンポジウム、「抑留絵画及び写真展」開
会式 (モスクワ)、ソ連抑留中日本人死亡者慰霊碑除幕式
(ハバロフスク) 出席。50年ぶりにエラブガ訪問。
日露交流シンポジウム (モスクワで12回、東京で5回
開催) で『戦後強制抑留問題』について協議、両国民の
相互認識と理解を深め、問題の早期解決推進を両政府へ
要望し続ける。
- 2000年 (平成12年) 7月 国務大臣 金融再生委員会委員長 就任
- 2002年 (平成14年) 4月 勲一等旭日大綬章 受章
- 2005年 (平成17年) 2月 弁護士登録 (第一東京弁護士会)
- 2007年 (平成19年) 11月 レジオン・ドヌール勲章 受章
- 2014年 (平成26年) 4月 一般財団法人 全国強制抑留者協会 会長 就任
- 2019年 (平成31年) 4月 後続く人達がどう長く抑留の悲劇を記憶し、如何にそ
の霊を慰める事業を継続してもらえるかと思い悩み、抑
留関連資料の収集・展示のための国立史料館の整備を希
求しながら、その生涯を閉じる。

